

開校式に開所式、シンポジウム…。多忙な日程がスタート



# ラパスの便り

鳥大メキシコ海外実践教育カリキュラム

岩崎 正美

第4回目のメキシコ

・ラパスでの海外実践教育が始まりました。この事業に至る経過を

振り返ると、1982 フォルニア半島の街ケ年、メキシコバハカリレロネグロでの海外学

## 3カ月の異文化体験

術調査に始まります。た。国際人養成に向け、その後、国際協力機構 学長裁量で本学独自の構 (JICA) による 予算で継続することに技術協力を始め、種々なったのです。の共同研究を通じて、 新型インフルエンザラパスにあるメキシコ の世界的な流行が報道 北西部生物学研究セン される中での今回の派ター (CIBNOR) 遣事業は、過去3回の

および南バハカリフォ 実績と経験を踏まえて ルニア州立大学 (UA 入念な派遣前教育を進 BCS) と緊密な連携 めてきました。全学か 関係が築かれてきまし た。 2005年に文部科 港を出発。ロサンゼル 略本部強化事業の採択 受け、CIBNO 14日、CIBNOR Rに本学で初めて海外 務務所を開設。続いて 鳥取大学との2研究室 戦略的国際連携支援事 開所式、そして菌類き 業の採択によりこの学 のこの日墨共同シンポ シウムを開催するな した。これも先人が築 きた。多彩な行事の初日 いてきた半島での地道 でした。これから約3 月分の異文化体験・共 同生活は、彼らの今後 の人生に有形無形の太 きな財産になるものと 期待しています。

戦略的国際連携支援 事業が終了した後の08 年、成果の英語発表は 高い評価を受けまし ・国際交流担当)

## 初日から多彩な行事

**教育**

ご意見をお寄せください

〒680-8688(住所不要)

新日本海新聞社報道部教育担当

電子メール kyouiku@nnn.co.jp

ファクス 0857(37)0037